

報告書

氏 名	廣瀬 公仁
研 修 名	平成30年度 第6学年BSL アドバンスドコース
主催団体名	福島県立医科大学 放射線腫瘍学講座
研 修 国	アメリカ合衆国
研 修 期 間	6月20日 ～ 7月1日 (12日間)
研 修 目 的	オハイオ州立大ジェームス総合がんセンターにおいて臨床実習を行う。 全米最大規模の放射線治療部門を有する総合病院にて、放射線治療の最前線を学ぶ。
研 修 内 容	<p>2018年6月19日 11:00 成田国際空港発 14:07 オハイオ州コロンバス着</p> <p>6月20日 終日 オハイオ州立大ジェームス総合がんセンターにて実習 ～ (配属の臓器別チームのスケジュールに基づく)</p> <p>6月26日</p> <p>6月27日 10:21 コロンバス発 11:35 ワシントンD.C. 着</p> <p>6月28日 終日 アメリカ国立衛生研究所</p> <p>6月29日 6:20 ワシントンD.C. 発 9:59 ニューヨーク着</p> <p>6月30日 終日 自由行動 ～</p> <p>7月1日</p> <p>7月2日 12:00 ニューヨーク発 7月3日 15:00 成田国際空港着</p>
研修の成果	<p>平成30年6月20日から26日にかけて、アメリカ・オハイオ州立大学の The James Cancer Hospital 放射線腫瘍学講座で臨床実習をする機会に恵まれました。オハイオ州立大学は、全米有数の放射線治療施設を有しており、疾病の診断を行う放射線診断学はもとより、放射線のがんの治療に積極的に活用しています。今回の臨床実習では、口腔を含む頭頸部がん、消化器がんなど部位別の放射線治療学を中心に、外来および入院診療の見学、さらには放射線生物学の講義に参加しました。</p> <p>今回の臨床実習で、アメリカではサイバーナイフに代表される先進のがん放射線治</p>

	<p>療が日本以上に積極的に行なわれている現状を目の当たりにしました。放射線治療は非侵襲性治療である一方、放射線障害という副作用があります。しかし、最近では、サイバーナイフや他の放射線治療のようにこの点を克服する先進の医療技術が普及しようとしています。そして、これらにいち早く取り組み、また数多くの症例を手掛けてきた The James Cancer Hospital での臨床実習は、その最先端に触れることのできる有益な機会となりました。</p> <p>放射線治療は、今後さらに進歩し、適用できるがんの種類も部位も拡大すること、それと同時に、今以上に放射線による副作用を減弱させることが可能となる時が来る事を実感しました。</p> <p>一方、研修日程後段では、世界の感染症研究をリードする National Institute of Health (NIH : アメリカ国立衛生研究所) にて研修を行いました。NIH には福島県立医科大学から研究員として1名の先生が留学をされています。その先生の案内で、NIH 内はもちろんのこと、先生のご研究テーマである最新の質量分析器を用いた、がんの新規マーカーの開発という最先端の研究について、実際の実験室やその様子を見学する機会に恵まれました。</p> <p>以上申し述べた通り、今回の研修で、オハイオ州立大学では臨床医学を、NIH では基礎研究を、ともに最先端の内容を学ぶことができたことが最大の成果であると考えています。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>福島県は福島第一原子力発電所事故による甚大な放射線被害を受けました。そのため県民の放射線に対する警戒感は何の都道府県に比べ大きいように感じます。しかし、放射線の医療への応用は、私たちの生命を守る有益な存在です。そこで、放射線治療が有効な福島県の患者さんには、今回の臨床実習で得た成果を基に、放射線に対する患者さんの気持ちに寄り添い、県民の健康の保持・増進に寄与できる医師になりたいと考えています。</p>

